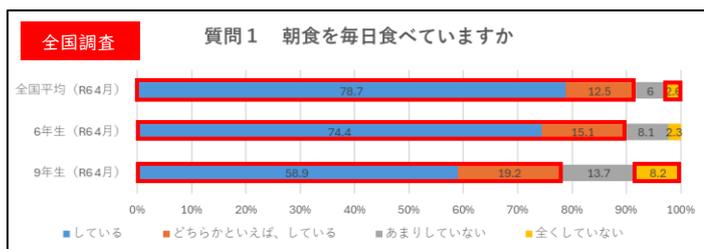


令和7年度 全国学力学習状況調査分析 及び 学校評価アンケート分析

京都市立向島秀蓮小中学校
校長 太田 美佐和

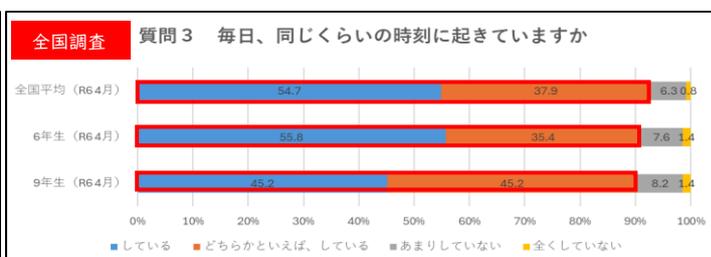
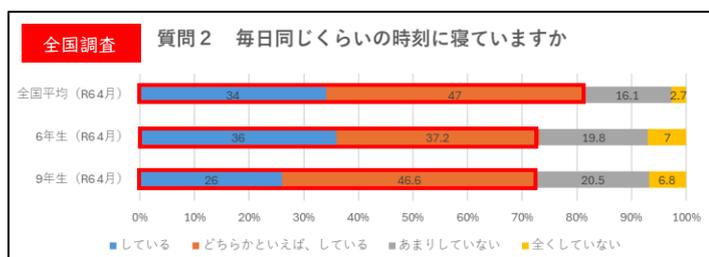
本校6年生・9年生を対象に4月18日に実施された「全国学力 学習状況調査」について、結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。本調査は、国語、算数・数学、理科の3教科のテスト結果と同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。今回は、「後期 学校評価アンケートの回答結果」と併せて、「睡眠・食について」「人との関わりについて」の2点に絞って分析したものをお伝えします。

睡眠・食について



6年生・9年生ともに、「朝の食事」について、全国の回答結果と比べると、大きく課題が残るものとなりました。

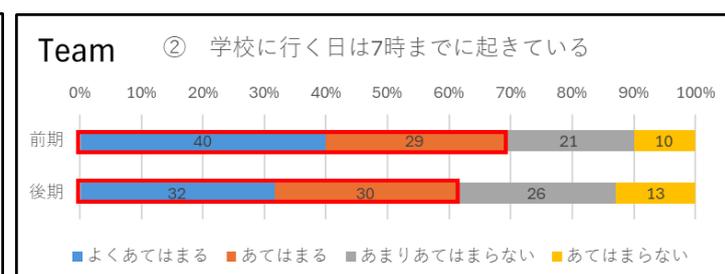
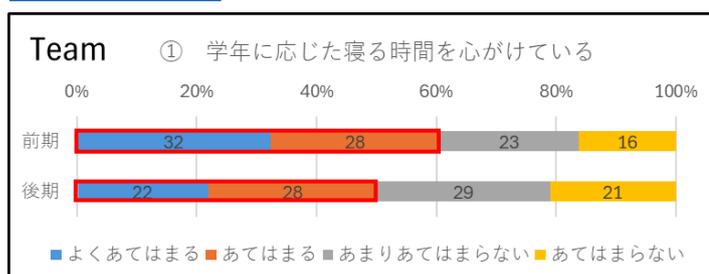
9年生は全国に比べ、約20ポイント近く下回る結果となり、「全く食べない」と回答した生徒は、全国に比べると3倍近いことがわかります。これらの要因として、



6年生・9年生ともに、全国の生徒の回答結果と比較すると、入眠時間・起床時間に対する意識が低いことがわかります。入眠及び起床において、安定が見られないことから、落ち着いて朝の食事時間を確保できていないことが予想されます。これら課題においては、R6年度アンケート結果からも見られ、本校が抱える課題の一つだと捉えています。

そこで、本校では、R7年度より、これまで行っていた「すいみん学習」、さらに「生活リズム調べ」に関しては、回数を増やし、それら結果から生徒へ寄り添う指導を行ってまいりました。下記は今年度の学校評価アンケートの結果となっています。

学校評価アンケート



前期課程・後期課程生徒が所属する Team ステージに目を向けると、「①学年に応じた寝る時間を心がけている」・「②学校に行く日は7時までに起きている」という2つの回答結果はどちらも、前半期より後半期の方が「あてはまる」と回答した生徒が減少傾向にあることが分かります。これは、先日、配布したよつば通信（保健だより）に記載した通り、生活改善に向けた取組の期間中は、「生徒も意識的に過ごそうとしている」ことが、回答結果や回答時の言動から見られます。

しかし、生徒は、「家の人に言われるから寝よう。」や「遅刻をすると、注意されるから。」といった外発的な動機のみで、自身の行動をコントロールしているとも捉えることができます。つまり、生徒は、食を含めた「生活に対する欲求」が著しく低く、自らより良い生活習慣改善へと向けているわけではないということです。

これで本当にいいのでしょうか! ?

「基本的な生活環境が満たされている」ことで、何事においても前向きに取り組むやる気や、集中力、エネルギーへとつながる土台の部分に大きく影響しています。また、これら改善においては、学校での取組以上に、

家庭の力が必要です！改善が必要です！！

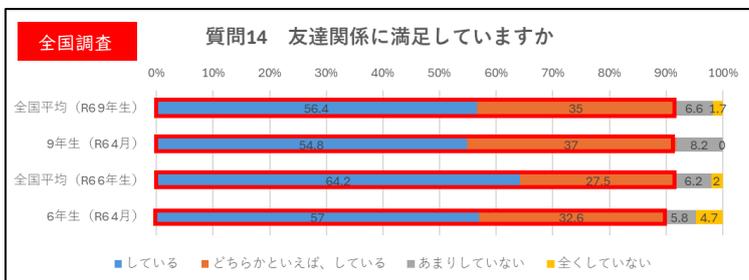
身体も心も著しく伸びると言われる成長の「黄金期」であるがゆえに、

「よく食べ」・「よく寝る」 家庭での指導を見なおす！

まずは、この子たちの実態を受け入れ、ともに生徒のより良い成長を促すことができればと思います。

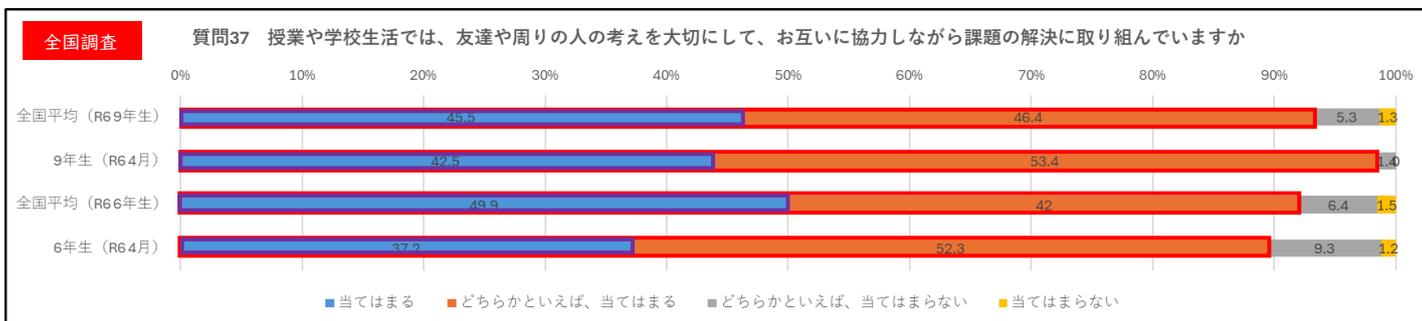
また、これは6年生・9年生だけの結果ではなく、これまで1年生からの積み上げとなります。今一度、ご家庭での子たちの生活に目を向けていただき、よりよい生活習慣の獲得から、本校が掲げる6つの力（考える力・発信力・コミュニケーション力・折れない力・自律的活動力・他者を受容する力）の育成を共に行いましょう。

人との関わりについて



「人とのかかわり」に関する質問で、「友達関係に満足していますか。」に対しては、「している」と回答した生徒が、6年生・9年生ともに全国平均並みの数値となりました。

また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に



取り組んでいますか」という質問に対しても、肯定的な回答は、全国平均並みとなりました。

しかし一方で、「あてはまる」に注力して分析すると、6年・9年生ともに全国平均を下回ることがわかります。このことから、友達との関係の構築においては一定成果が見られるものの、他者と自身の考えを比べるといった「学びの集団づくり（学び合い、高め合い、認め合い、励まし合える集団）」に向けては、まだまだ課題があると捉えています。

そこで、本校では今年度より、全学年で取組を推し進めている、SEL-8S（社会性と情動の学習）の活動に今後より注力して取り組みを行いたいと考えています。

【SEL-8S】とは、

小中学生を対象とした、「自分ってどんな人かを理解する」と「相手とのより良い人間関係づくり」を軸に、より良い相手との関わり方を身に付けることを目標とした活動。

ゲームや身体活動、ロールプレイなどを用いて、楽しく学びつつも、より良い人間関係に向けて、そしてより良い「生き方」について考えていく時間を通して、学びの集団づくりから「学力向上」ひいては、それが未来で「生きる力」の伸長になると考えています。

学びの集団づくりから、学力向上→「生きる力」の伸長